

## 「人 文」創刊によせて

虎 頭 民 雄

去る昭和52年6月6日、本学において、「鹿児島県立短期大学人文学会」が結成された。その目的とするところは、「人文諸科学の発展に寄与し、会員の研究振興を図る」にある。この目的を達成するための事業の一つとして、論集「人文」の発行があげられているが、ここにその実現を見て、創刊号が発行の運びに至ったことは慶賀の至りに堪えない。

本学においては、すでに「鹿児島県立短期大学紀要」「商経論叢」「地域研究所年報」等の論文発表の場があるが、ここに今新たに「人 文」が発行せられて、さらに論文発表の場が加えられたことは、本学における研究意欲の向上に、大いに役立つものであると信じて止まない。

徳川家康は人生について「重き荷を負いて遠き道を行くが如し」といったが、学問の世界もまた然りであると思う。学問研究という重い荷を負って黙々と孤独の遠い道を歩いて行かなければならない。しかし、時には重い荷を路傍に置いて、中味を点検することも必要であろう。研究論文の発表というのは、そのような重い荷の点検ではなかろうか。そして不要な荷は捨て、新たな荷を加えて、また限りなき前進をつづけて行かなければならないであろう。

「人文学会」はさきほど発足したが、ここに最初の荷の点検を行なうという意味で、「人文」が創刊されたと考えてよいであろう。

今後さらに前進をつづけ、第2回以降点検を行ない、目的にある如く「人文諸科学の発展に寄与する」ことを祈って止まない。